

絵本から平和を考える



103

世界中の子どもたちが



「世界中の子どもたちが103」

平和を作ろう！
絵本作家たちのアクション／著
講談社

103人の絵本作家が
平和を願って
書いた絵本

へいわってなあに？



「へいわとせんそう」

たにかわしゅんたろう／ぶん
Noritake／え
ブロンズ新社

へいわとせんそう

たにかわしゅんたろうぶん Noritake え



同じものごとを比べて
わかること

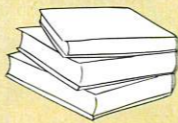
「ピース・ブック」

トッド・パール／作
堀尾輝久／訳
童心社

図書館名	所在地	電話番号	図書館名	所在地	電話番号
中央	千住5-13-5	03-5813-3740	新田	新田2-2-2	03-3912-1767
伊興	伊興2-4-22	03-3857-8501	竹の塚	竹の塚2-25-17	03-3859-9966
梅田	梅田7-13-1	03-3840-4646	東和	東和3-12-9	03-3628-6203
興本	興野1-13-38	03-3889-0370	舎人	舎人1-3-26	03-3857-0771
江南	小台2-4-18	03-3913-0460	花畑	花畑4-16-8	03-3850-2601
江北	江北3-39-4	03-3890-4488	保塚	保塚町7-16	03-3858-1553
佐野	佐野2-43-5	03-3628-3275	やよい	中央本町3-15-1	03-3852-1433
鹿浜	鹿浜6-8-1	03-3857-6551			

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部サービスを制限し、開館しております。
また、ご来館の際に、入館票の記入をお願いしています。皆様に安心してご利用いただくため、何卒、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

私の読書通帳から No.12



戦争の日本近現代史
東大式レッスン！ 征韓論から太平洋戦争まで
加藤陽子



戦争の日本近現代史
東大式レッスン！
征韓論から太平洋戦争まで
加藤陽子／著
講談社

太平洋戦争だけを取り上げて「なぜ日本は負ける戦争をしたのか」と問い掛けてみても、真実は見えてこない。著者は言います。日露戦争と日中戦争がそうであったように、どの戦争と戦争との間にも、切り離して考えることのできない数々の因果関係が横たわっているからです。単に事件を追いかけるだけの暗記一辺倒の勉強では、

到底核心には迫りません。本書の副題に「征韓論から太平洋戦争まで」とあるように、幕末のペリー来航後の吉田松蔭の朝鮮論や、明治元年の木戸孝允日記の征韓論に、既にその後日本が辿った対外的な膨張論の根っこがあったことに衝撃を覚えます。

(文／足立区長 近藤やよい)



図書館は本と人とのかけはしです。

戦争・平和特集

2022年9月

図書館だより

124号



区立中学校で被爆体験を伝える様子

区制90周年記念企画に連動し、戦争・平和特集として、戦争の恐ろしさや、平和の尊さを考えるきっかけとなる本をご紹介します。区内で被爆体験を伝える活動をされている足立区原爆被害者の会（足友会）の方にも、ご協力いただきました。

「足立区原爆被害者の会（足友会）」とは？

1960年（昭和35年）9月2日に、千住神社社務所において発足。学校などに出向いて被爆体験を子どもたちに伝える活動や、被爆体験を綴られた体験集「原子雲」の発行など、幅広い活動をされています。

発行元

足立区立中央図書館

足立区千住5-13-5

TEL 03-5813-3740

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/bunka/library/index.html>



体験を伝える本

「原爆が落とされた時、私は6歳でした。」



足友会会員の木元さんから当時のことを伺いました。

原爆投下の数日前、疎開先に広島から父親が迎えに来たのですが、その時多分お腹を壊していたのでしょ。自分は疎開先に残り、親父は一度広島に帰っていきました。そのタイミングで原爆が落ちました。うちは爆心地から800mくらいでした。親父、お袋、兄貴、妹はみんな死に、私だけ助かりました。ある日、私のことを哀れに感じた親戚から、「お父さんやお母さんと一緒に死んでしまったほうが良かったね」と言われたとき、「ほくもそう思うよ」と答えたことを今でもはっきりと覚えています。6歳の子どものような返事をするほど、当時は厳しい状況でした。



被爆という体験がまとめられた貴重な一冊です。これまでに第五集まで発行されています。

「原子雲」
足立区原爆被害者の会（足友会）

区制90周年記念企画 足友会インタビュー



足友会の皆さんの想いを区ホームページでもご紹介

足立区制90周年記念 広報番組
「1941-1945 -戦後77年-
あだちの記憶を語り継ぐ」



戦争を体験した「戦後の世代」があだちの記憶を語ります

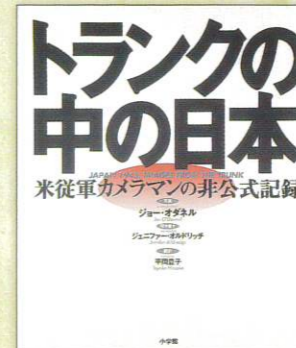
足友会の皆さんからご紹介頂いた 原爆投下時の過酷な状況がよく分かる本



「絵で読む広島原爆」
那須正幹/文 西村繁男/絵
福音館書店

生存者の証言を基に、繊細に描かれた絵を数多く掲載。中でも原爆投下前の街並みと、投下直後を見比べると原爆の恐ろしさが伝わってきます。

絵だけではなく、核の原理や被爆による被害についても書かれており、子どもだけでなく大人にも手に取っていただきたい一冊です。



アメリカの従軍カメラマンが密かに持ち帰った、終戦直後の日本の街並みと人々の写真。

「トランクの中の日本
米従軍カメラマンの非公式記録
J・オダネル写真集」

ジョー・オダネル/写真
ジェニファー・オールドリッチ/聞き書き
[平岡豊子/訳]
小学館



整列する生徒たちの上空600メートルで原子爆弾は爆発しました。爆発の瞬間何が起ったのか。資料や証言を基に生徒たちの様子が記されています。

「いしぶみ
広島二中一年生全滅の記録」
広島テレビ放送/編
ポプラ社

戦争体験と想いを受け継ぐ

広島県出身の女優の綾瀬はるかさん。ご自身のおばあ様をはじめ、多くの被爆者を訪ね、貴重な体験や想いに寄り添いながら取材した記録です。



「綾瀬はるか『戦争』を聞く」
TBSテレビ『NEWS23』取材班/編
岩波書店



被爆体験者の証言を基に、広島の学生たちが当時の様子を描きます。

「平和のバトン
広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶」
弓狩匡純/著
くもん出版



広島、長崎、沖縄の学校や資料館が、子どもたちに戦争体験を伝える活動を幅広く紹介。

「戦争体験を『語り』・『継ぐ』
広島・長崎・沖縄
“次世代型”の平和教育」
大石学/監修
学研プラス

戦時下の暮らしやスポーツ



手記、手紙、絵、写真。寄せられた投稿から見る当時の暮らし。

「戦中・戦後の暮らしの記録
君と、これから生まれてくる君へ」
暮らしの手帖社



戦火の中、行われた15試合。白球を追った選手たちのその後も描いています。

「昭和十七年の夏 幻の甲子園
戦時下の球児たち」
早坂隆/著
文藝春秋



軍用犬や食用としての供出など、戦争の過酷さが伺える一冊。

「戦時下の日本犬」
川西玲子/著
蒼天社出版



開催を実現したのは学生たちの強い思いでした。名前を変えて行われた箱根駅伝です。

「昭和十八年 幻の箱根駅伝
ゴールは靖国、そして戦地へ」
澤宮優/著
河出書房新社